

- 1 事業名：城西☆ふれ愛ひろば ～子どもからお年寄りまで～
- 2 実施団体：城西まちづくり協議会
- 3 協働担当課：健康福祉部健康福祉課
- 4 事業概要

高齢者の居場所と食事提供の場として行ってきた「城西☆ふれ愛ひろば」は、民生委員や地域の老人会、公民館利用者などの誘い合いにより、地域に浸透しつつあり、利用者も増えている。しかし、28年度は介護保険の改正により、デイサービスの対象から外れる、要支援1・2の対象者や、地域に引きこもりがちな高齢者への掘り起こしが十分ではなかったことが課題であり、29年度はこうした高齢者への「ふれ愛ひろば」への参加を促す仕組み作りに取り組んだ。また、小学生を対象とする学習支援事業「まちばの寺子屋」など地域で子どもを見守る事業を実施する中で、共働き家庭が増えたり、長時間労働など労働環境の変化により、手作りの食事を家庭で楽しむ時間が少なくなり、一人で食事をとる子どもが増えているという地域の課題が明らかになってきたため、29年度は、高齢者のみならず、子どもの居場所作りにも取り組んできた。まず、取り掛かりとして、給食のない土曜日に「まちばの寺子屋」事業と連携しながら安価で昼食を提供する試みを行った。

さらに、地域課題の解決に向けて、地域全体の福祉向上を図ると共に、自立した地域活性事業に向けてスタッフの研修と、勉強会に取り組んだ。

ランチ 500 円・カフェ 200 円・土曜日寺子屋ランチ 200 円（小学生）300 円（中学生以上）で、それぞれ月 1 回の提供をした。要望や参加状況を見ながら、実施回数を増やし地域のイベントへも積極的に参加した。

引きこもりがちな高齢者に対して、民生・児童委員、愛育委員、老人会や公民館利用者が積極的に声かけを行うことなどにより、「ふれ愛ひろば」への参加をきっかけに地域に出てきてもらう仕組みが出来つつあると実感している。

子どもの居場所作りについては、「まちばの寺子屋」事業と連携して「寺子屋ランチ」の利用経験者や、その家族からの声かけにより小学生の参加者が増えている。また、中学生の兄弟や家族での参加も増えている。

スタッフ会議（月 1 回）で振り返りと、次回の計画を作成し、まちづくり協議会福祉部会定例会で意見交換を行い、部員、津山市社協、包括支援センターなどと連携を図りながら、今回の事業をコミュニティービジネスへ移行させ、持続可能な地域づくりのための原動力とすることも視野に入れている。

さらにこの事業が、今後の城西地区および、周辺地域のまちづくりに繋がっていくことを期待している。

5 実施内容

	カフェ		ランチ		寺子屋	
	開催日	参加人数	開催日	参加人数	開催日	参加人数
5月			16日	28名	27日	24名
6月	6日	24名	20日	29名		
7月	4日	24名	18日	30名	24日	22名
8月	1日	31名			26日	17名
9月	5日	18名	19日	27名		
10月	3日	14名	17日	28名	28日	25名
11月	7日	22名	21日	25名		
12月	5日	24名	19日	31名	21日 22日 25日 26日 27日	20名 23名 14名 25名 16名
1月			16日	27名	27日	15名
2月	6日	19名	20日	27名	24日	20名
3月	6日	20名	20日	30名	24日	17名
合計	9日間	172名	10日間	282名	12日間	238名



ふれ愛カフェ (200円)
毎月第1火曜日 10:30~9回開催
29年度は1回平均19名参加
(28年度は1回24名)



ふれ愛ランチ (500円)
毎月第3火曜日 10:30~10回開催
29年度は1回平均28名参加
(28年度は1回21名)



寺子屋ランチ

毎月第4土曜日 12時～12回開催
小学生 200円・中学生以上 300円
29年度は1回平均20名参加
(28年度は1回17名)



冬休み寺子屋ランチ

小学生保護者からの要望により、子どもの孤食対策として、冬休み期間中(5日間)寺子屋ランチを開催
1回平均20名参加



作州民芸館カフェ

毎週木曜日と毎月第3日曜日開催
スタッフの接客研修の場として、地域住民と観光客など一般市民を対象に体験実習に努めた



出張カフェ

城西公民館の利用団体からの依頼で、出張カフェを3回開催
七夕会やクリスマスコンサートに、手作り菓子と飲み物を提供



城西まるごと博物館

10月1日(日)開催
カップケーキ・ラスク・クッキーを販売。津山東高生がボランティア参加



城西公民館文化祭(オープンカフェ)

11月12日(日)開催
豆腐ドーナツ・かぼちゃ蒸しパン・ドリンクを販売



西小ふれあい祭り
11月25日（土）開催
おにぎり弁当 100 食販売



コーヒーの淹れ方教室
1月9日（火）開催
コーヒー豆焙煎の店を運営される地域住民の方を講師に招き、研修会を行った



コミュニティービジネス勉強会
2月28日（水）開催
カフェの運営について、岡山商科大学より講師を招き勉強会を行う



スタッフ会議
毎月1回開催
毎月1回の会議とカフェやランチの開催後は、毎回スタッフ同士でその日の振り返りを行い、運営に生かしている

6 事業実施による成果、効果、今後の課題

(1) 成果、効果

- 前年度の参加者が自発的に知り合い、友人、地域の高齢者へ声かけを行なえ、広報してくれた。
- 29年度は、若い世代への声かけも積極的に行ったことで、同居する高齢者にも「ふれ愛ひろば」の活動を知って貰えた。
- 高齢者だけでなく、子どもや孫と一緒に利用される方もいて、地域の世代交流の場としても活用できた。
- 接客を担当するスタッフは、利用される方にあわせたサービスを心がけ、目の不自由な方にも楽しんで頂ける時間の提供ができた。
- スタッフは作業手順も良くなり、会場全体が穏やかで家庭的な雰囲気へと変化した。

- スタッフ会議では 30 年度からは自立した活動にするための前向きな意見があり、地域スタッフの方にとっても、生きがいとなる場所になっている。
- 城西ロゴマーク入り「城西☆ふれ愛ひろば」「ふれ愛ランチ」「ふれ愛カフェ」の、のぼりを活用することで宣伝効果が高まった。
- フードバンク品を活用することで、材料代を抑えられたと共に、バラエティーに富んだ献立になった。
- カフェやランチ会場に音楽を流したり、まちがいさがしのプリント・折り紙・小物作りキッド・お手玉などを置いたことで、遊びを楽しみながら会話が進み、長く滞在してもらえた。
- 毎週木曜日と毎月第3日曜日開催の作州民芸館カフェで、スタッフの接客研修を行った結果、幅広い地域の方へ「ふれ愛ひろば」利用の案内が出来た。
- 小学生を対象とする学習支援事業「まちばの寺子屋」に参加されている保護者からの声で学校の給食がない間「冬休み寺子屋ランチ」を始めた。子どもの孤食対策を目的とし、大人も一緒に食べることで家庭的な雰囲気を作っている。
- 毎月1回スタッフ会議を行い、スタッフの当番組み、献立の相談、利用者の過ごし方などについて話し合い、情報を共有し、共通理解することで活動しやすくなる。
- 広報チラシを活用して、城西地域への回覧を年2回行います。民生児童委員、愛育委員、老人会、津山市包括支援センターなどと連携することで、新しい利用者が増えている。

(2) 今後の課題

- コミュニティービジネスに向けて運営していくためには、城西地域で農業をされている方の協力が必要。安価で提供して頂けるための決まりと回収場所を作る。
- 外に出にくい高齢者や、地域内で引きこもって方々が少しでも外に気持ちが向き、出てこられるような居場所を作る。
- 共働き家庭が増えたり、労働環境の変化により一人で食事をとる子どもが増えている。地域のこどもが通う小学校と連携しながら、「寺子屋ランチ」の利用をすすめていく。

7 県民局と協働した効果及び課題

- 審査委員から助言を頂き、ボランティアによる運営、社会福祉協議会からの継続的な支援、地域住民を会員とした会費による運営など継続に向けた検討については、毎月第2木曜日開催の「福祉部会」で、事業報告や協議を重ね部会員の方に意見をいただきながら、事業を進めていく。